

フリービットクラウド Backup Orchestra サービス仕様書

Ver.1.2

フリービット株式会社



FreeBit Co., Ltd. All Rights Reserved.

Confidential

改訂履歴

Rev.	作成日	改定項目	改定内容
1.2	2018年10月1日	4.5 WEB 管理コンソール機能 10.3 課金計算方法について	ローカル、またはネットワークパスへのバックアップ時の課金体系を変更
1.1	2018年2月5日	4.1 ソフトウェア要件	対象 OS 要件を更新
1.0	2015年10月22日	初版	

©2015 FreeBit Co., Ltd. All Rights Reserved.

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部について、著者からの許諾を得ずに、いかなる方法においても無断で複写、複製することは禁じられています。

目次

1. 本書の目的	4
2. 用語の定義	4
3. サービス概要	4
4. サービス仕様	7
4.1 ソフトウェア要件	7
4.2 バックアップ機能	10
4.3 リストア機能	16
4.4 DR オプション機能	18
4.5 WEB 管理コンソール機能	20
5. サービスの責任範囲	23
6. サポートについて	24
6.1 サポート対象について	24
6.2 お問い合わせへの解決時間指標について	25
6.3 サポート窓口と受付時間について	25
7. 禁止事項	26
8. 契約について	26
8.1 契約の流れ	26
8.2 契約に関する書類	27
8.3 契約期間について	27
8.4 お客様の登録情報の変更について	27
9. 解約について	28
10. 課金について	28
10.1 お支払い方法	28
10.2 課金サイト	28
10.3 課金計算方法について	29
10.4 DR オプションの課金について	30
10.5 サービス費用未払い時の対応について	31
11. サービス休停止時の連絡について	31
12. テスト利用について	31
12.1 テスト利用における機能制限	31
12.2 テスト利用の期間	31

1. 本書の目的

フリービットクラウド Backup Orchestra(以下、本サービス)の仕様を説明する資料となります。

2. 用語の定義

本文書で使用する用語を説明します。

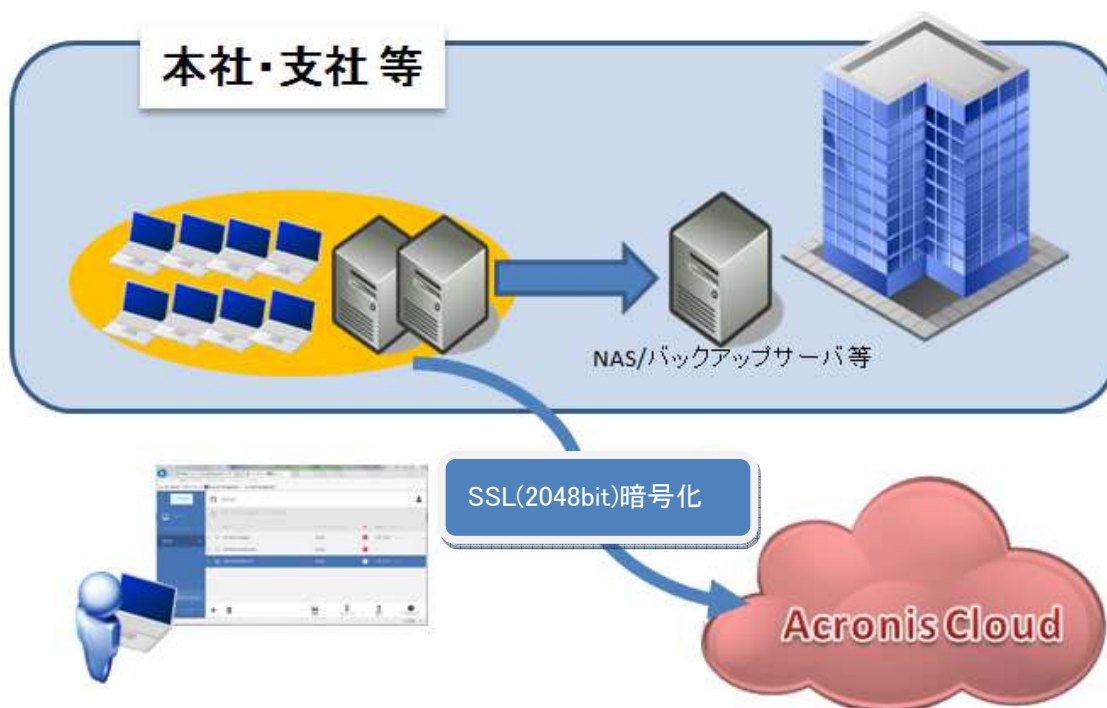
用語	説明
お客様	本サービスのサービス利用約款に基づく契約を弊社と締結し、本サービスの提供を受ける者。本サービスは法人または法人に準ずる団体に限りご利用できません。またお客様の委託を受け作業を代行する者も同様に定義しております。
Acronis	本サービスで使用するバックアップ製品です。
DR(Disaster Recovery)	自然災害などで被害を受けたシステムを復旧・修復すること。また、そのための備えとなる機器やシステム、体制の総称です。
BCP(事業継続計画)	災害や事故等が発生し、操業度が一時的に低下した場合でも、その事業所にとって中核となる事業については継続が可能な状況までの低下に抑える(中核事業は継続させる)、また、回復時間をできる限り短縮させ、できるだけ早期に操業度を回復させることにより事業所の損失を最小限に抑え、災害や事故等の発生後も事業を継続させていくための計画です。
管理コンソール	本サービスを一元管理するためのブラウザで提供される管理機能です。
P2P(Physical 2 Physical)	物理 PC/物理サーバから、異なる物理 PC/サーバへ OS 丸ごと移行する行為です。
P2V(Physical 2 Virtual)	物理 PC/物理サーバから、クラウド環境等の仮想環境へ OS 丸ごと移行する行為です。
V2V(Virtual 2 Virtual)	クラウド環境等の仮想上 PC/物理サーバから、異なる仮想環境へ OS 丸ごと移行する行為です。

3. サービス概要

本サービスは、お客様の PC・サーバ上のデータやOSを自社内、及びクラウド上へバックアップが可能となる仕組みを提供する SaaS 型のバックアップサービス(SaaS -Software as a Service)です。

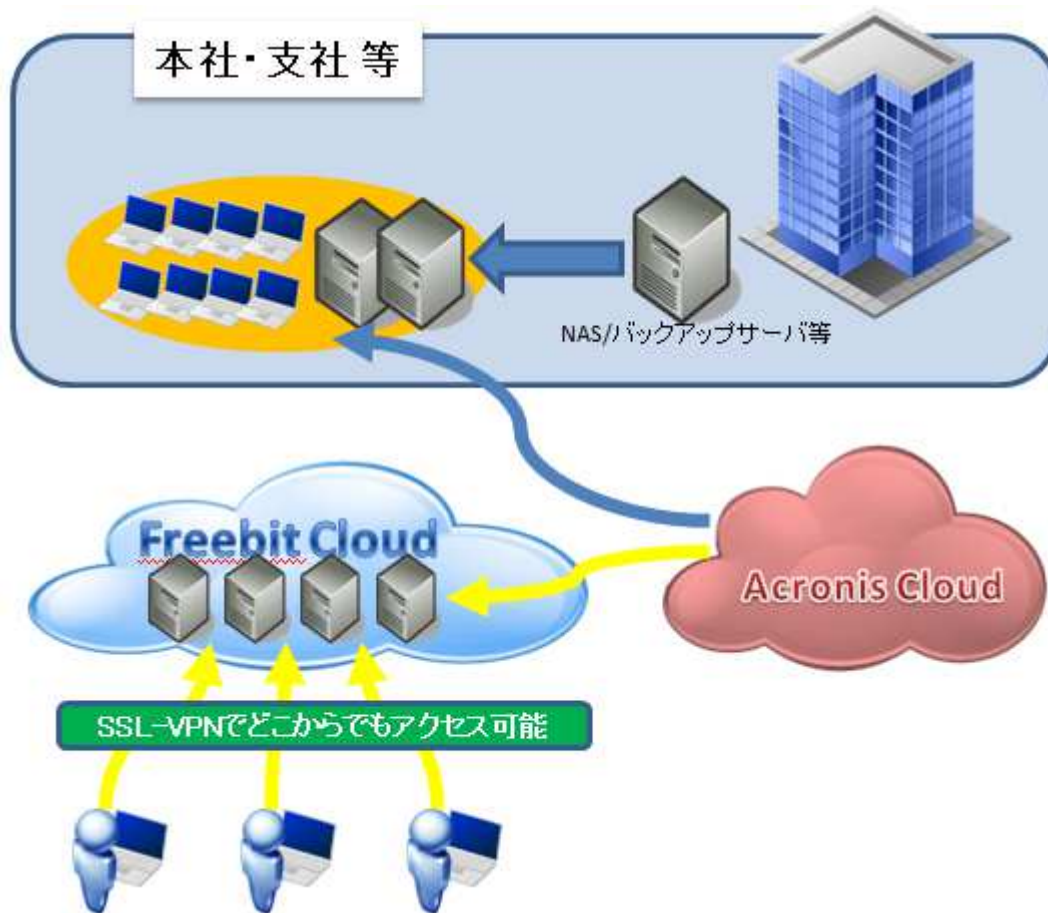
サービスで使用するバックアップエンジンは、アクロニス社のエンジンを採用し、WEBブラウザで一元管理可能なバックアップ環境をご提供します。

①バックアップ



バックアップ対象のPC、及びサーバにエージェントをインストールすることで、社内の NAS やバックアップサーバ、及び Acronis Cloud へバックアップを行う事が出来ます。重要度の低いデータ・OSを社内にバックアップし、DR や BCP を考慮した重要度の高いバックアップをクラウド上へバックアップする事が可能となり、理想的なバックアップ環境を導入することが出来ます。またバックアップジョブは全てWEBコンソール上で一元管理することが可能です。

②リストア



バックアップしたデータ・OSを社内の環境にリストアすることはもちろん、Acronis Cloud へバックアップしたデータは「フリービットクラウド VDC」上にリストアすることも可能です。過去データの復旧やPC・サーバ障害時のOSリストアだけでなく、クラウド上へリストアを実施することが可能となるため、企業のDRやBCP対策として活用することが出来ます。さらに、「フリービットクラウド VDC」ではソフトウェア型SSL-VPNアクセスを標準搭載しており、震災等で社内からアクセスが出来ない状況においても、インターネット環境さえあれば自由にシステムを利用することが出来るため、事業継続性を容易に高めることが出来ます。

4. サービス仕様

4.1 ソフトウェア要件

①対象 OS 要件

・サポート対象 OS

お問い合わせ窓口でのサポート対象となる OS は以下の通りです。

エージェント	対象 OS
Microsoft Windows 用 エージェント	<ul style="list-style-type: none">Windows Vista: Vista Home Basic、Vista Home Premium を除くすべてのエディション(x86、x64)Windows 7: Starter、Home Edition を除くすべてのエディション(x86、x64)Windows 8/8.1: Windows RT Edition を除くすべてのエディション(x86、x64)Windows Server 2003/2003 R2: Standard、Enterprise の各エディション(x86、x64)Windows Server 2008: Standard、Enterprise、Datacenter、Web の各エディション(x86、x64)Windows Server 2008 R2: Standard、Enterprise、Datacenter、Foundation、Web の各エディションWindows Server 2012/2012 R2: すべてのエディションWindows Storage Server 2003/2008/2008 R2/2012/2012 R2
Linux 用 エージェント	2.4.20 ~ 3.16 のカーネルおよび glibc 2.3.2 以降を搭載した Linux 以下の x86 および x86_64 Linux ディストリビューション <ul style="list-style-type: none">Red Hat Enterprise Linux 4.x、5.x、6.x、7.xCentOS 5.x、6.x、7、7.1、7.2、7.3

・サポート対象外 OS

お問い合わせ窓口でのサポート対象には含まれませんが、お客様責任において
ご利用可能な OS は以下の通りです。

エージェント	対象 OS
Linux 用 エージェント	2.4.20 ~ 3.16 のカーネルおよび glibc 2.3.2 以降を搭載した Linux 以下の x86 および x86_64 Linux ディストリビューション <ul style="list-style-type: none"> • Ubuntu 9.10、10.04、10.10、11.04、11.10、12.04、12.10、13.04、13.10、14.04、14.10 • Fedora 11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21 • SUSE Linux Enterprise Server 10 および 11 • SUSE Linux Enterprise Server 12-Btrfs を除くファイル システムでサポート • Debian 4、5、6、7.0、7.2、7.4、7.5、7.6、7.7 • Oracle Linux 5.x、6.x、7.0: Unbreakable Enterprise Kernel と Red Hat Compatible Kernel の両方 • CloudLinux 6.x
MAC 用エージェント	<ul style="list-style-type: none"> • OS X Mountain Lion 10.8 • OS X Mavericks 10.9 • OS X Yosemite 10.10

・Windows エージェントに含まれる「その他エージェント」について

エージェントは OS 以外に、Hyper-V や VMware の仮想基盤用エージェント、Microsoft Exchange Server や Microsoft SQL Server エージェントを利用することが可能です。

各エージェントは Windows エージェントと合わせてインストールする必要があります。

・バックアップ対象毎に必要なエージェントとインストール先

バックアップ対象毎に必要なエージェント及びインストール先が異なります。

一覧は以下の通りです。

バックアップ対象	エージェント	インストール先
Windows OSの物理マシン	Windowsエージェント	バックアップ対象のマシン
Linux OSの物理マシン	Linuxエージェント	バックアップ対象のマシン
OS Xの物理マシン	Macエージェント	バックアップ対象のマシン
VMware ESX(i)仮想マシン	VMwareエージェント	vCenter Serverおよび仮想マシンのストレージへのネットワークに接続できるWindowsマシン
Hyper-V仮想マシン	Hyper-Vエージェント	Hyper-Vホスト
SQLデータベース	SQLエージェント	Microsoft SQL Serverを実行しているマシン
Exchangeデータベース	Exchangeエージェント	Microsoft Exchange Serverを実行しているマシン

・各エージェントが使用するディスク容量

エージェントをインストールする際に必要となる容量は、以下の通りです。

エージェント	ディスク容量
Windowsエージェント	550MB
Linuxエージェント	500MB
Macエージェント	450MB
VMwareエージェント	700 MB (150 MB + 550 MB:Windowsエージェント)
Hyper-Vエージェント	600 MB (50 MB + 550 MB:Windowsエージェント)
Exchangeエージェント	750 MB (200 MB + 550 MB:Windowsエージェント)
SQLエージェント	600 MB (50 MB + 550 MB:Windowsエージェント)

②管理コンソール用ブラウザ要件

管理コンソールで利用可能なブラウザは以下の通りです。

- ・ Google Chrome 29 以降
- ・ Mozilla Firefox 23 以降
- ・ Opera 16 以降
- ・ Windows Internet Explorer 10 以降
- ・ MAC OS X および iOS オペレーティングシステムで稼働する Safari 5.1.7 以降

③通信要件

インターネット抜け通信(LAN⇒インターネット)において、以下のポートを使用します。
ファイアウォール等でポート制御をされている場合は、ポート解放が必要となります。

- ・ 443/tcp および 8443/tcp :WEB 管理コンソールで使用。
- ・ 7770~7800/tcp :エージェントがバックアップ管理サーバーと通信する際に使用。
- ・ 44445/tcp :エージェントはバックアップ時および復元時のデータ転送に使用。

4.2 バックアップ機能

①バックアップの流れ

バックアップは以下の流れで実行することが出来ます。

1: WEB 管理コンソールより対象 OS のモジュールをダウンロードし、バックアップを取得したい対象の PC・サーバへインストールする。

※仮想マシンのバックアップは、「②仮想マシンのバックアップ」を参照

2: WEB 管理コンソール上で「バックアップ計画」を作成し、対象のコンピュータへ割り当てる。(設定項目は事項、③バックアップ設定を参照)

②仮想マシンのバックアップ

Hyper-V および VMware 上に配置された仮想マシンをバックアップする場合は、専用エージェントを活用することで、仮想マシン自身へエージェントをインストールせずにバックアップを実行することが出来ます。また、仮想マシンへ個別にエージェントをインストールすることで、物理マシンとしてバックアップすることも可能です。

1: Hyper-V の場合

Hyper-V ホストサーバに対し、「エージェント for Hyper-V」をインストールすることで、その上で稼働する仮想マシンをバックアップすることが出来ます。

2: VMware の場合

vCenter Server および仮想マシンのストレージへのネットワークに接続できる Windows マシンに対し、「エージェント for VMware」をインストールすることで、仮想マシンをバックアップすることが出来ます。また、使用している ESX(i) で SAN に接続されたストレージが使用されている場合は、このエージェントを同じ SAN に接続されたマシンにインストールします。エージェントは、ESX(i) ホストおよび LAN を経由せずにストレージから仮想マシンを直接バックアップすることが出来ます。

③バックアップの作成

バックアップは、WEB 管理コンソール上で「バックアップ計画」を作成することで実行可能となります。バックアップ計画は、物理マシン及び仮想マシン単位で指定するバックアップ計画で設定可能な項目は、以下の通りです。

エージェント	ディスク容量
バックアップの対象	<p>以下の3種類より選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">・コンピュータ全体・ディスク/ボリューム・ファイル/フォルダ <p>仮想マシンをエージェントレスでバックアップする場合は、ファイル/フォルダ単位でのバックアップは指定できません。</p>
バックアップ先	<p>以下の3種類より選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">・クラウドストレージ AcronisCloudへバックアップします。・ローカルフォルダ バックアップ対象OS内のローカルフォルダへバックアップします。・ネットワークフォルダ LAN及びWAN内でネットワークパスが指定可能なバックアップ先を指定できます。 <p>ローカルフォルダ、及びネットワークフォルダを指定する場合は、「バックアップをクラウドストレージにコピーする」のチェックボックスを有効にすることで、クラウドストレージへバックアップがコピーされます。</p>
スケジュール	<p>以下の4種類より選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">・月単位

	<p>日付指定、及び「週+曜日」で指定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週単位 取得する曜日を指定することができます。 ・日単位 毎日実行、もしくは「月曜日から金曜日」のどちらかで指定することができます。 ・1時間ごと 実施する曜日、時間間隔、及び開始と終了時間の組み合わせで指定することができます。 <p>その他、以下の設定が可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バックアップ開始 開始時間を指定することができます。 ・設定した期間内でバックアップ計画を実行する 指定期間が終了した後に、バックアップが実施されないように制限することができます。 ・手動でのバックアップ開始 バックアップ対象マシンに「バックアップ計画」を割り当て、「今すぐ実行」を選択することで手動バックアップを実行することができます。
保持する期間	<p>以下の3種類より指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バックアップ期間 時間、日、週、月、年より組み合わせて期間を指定できます。 例：日単位 7日、週単位 4週、月単位 6月(6ヵ月) この場合、各単位のバックアップ取得ポイントが保持され、合計で $7 + 4 + 6 = 17$ のバックアップポイントが保持されます。 ・バックアップ数 バックアップの世代数を指定します。

	<ul style="list-style-type: none"> ・バックアップを無期限に保存する 世代数が無期限になります。 <p>1つのルールをすべてのバックアップに使用する場合は、「すべてのバックアップ セットの単一のルールに切り替え」を選択します。</p>
<p>バックアップオプション (未指定可)</p>	<p>以下のオプションを利用することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Windowsイベントログ Windowsのアプリケーションイベントログへの情報出力を有効化します。 ・エラーの処理 エラーが発生した際の再試行回数及び再試行間隔を指定できません。 ・スケジュール 指定した開始スケジュール通りに開始するか、遅延時間を指定して開始時間を分散するかを指定できます。 ・データ取り込みの前後に実行するコマンド データの取り込み前後に、コンピュータ上でコマンド、またはバッチファイルを指定して実行することができます。 ・バックアップのベリファイ バックアップファイルの整合性をチェックします。ベリファイは増分バックアップであってもフルバックアップからの整合性をチェックするため、長時間を要します。バックアップ対象の重要度に応じて、設定の有無を考慮する必要があります。 ・パフォーマンス バックアップ処理に割り当てるCPU・システムリソースを低/通常/高の3段階より選択できます。また、バックアップのデータ出力速度をKB/秒単位で制限することができます。 ・ファイルフィルタ

条件と一致するファイルのみをバックアップする、もしくは一致するファイルのみをバックアップしない、という詳細設定ができます。同時に設定を行う事が可能であり、どちらの設定にも含まれるファイルは「バックアップしない」が優先されます。また、「非表示のファイルとフォルダを全て除外する」及び「システムファイルとフォルダを除外する」を選択することができます。

・ボリュームシャドウコピーサービス(VSS)

スナップショット作成時にVSSを使用するかどうかを指定します。設定しない場合も、標準で有効となります。

・マルチボリュームスナップショット

複数のボリュームにまたがるデータをバックアップする場合に使用します。

・処理の前後に実行するコマンド

バックアップの前後に、該当のコンピュータ上でコマンド、またはバッチファイルを実行することができます。また、コマンドの成否で引き続きバックアップを実施するか、終了するかを選択することができます。

・初期シード

本オプションは利用できません。

・暗号化

バックアップファイルを暗号化し、復元時にパスワードロックをかけることができます。

・週単位のバックアップ

週単位のバックアップを指定する際に、最初の曜日を指定できます。

④バックアップの削除

WEB 管理コンソール上でバックアップ対象のマシンを削除した場合でも、取得したバックアップデータは自動的に削除されません。バックアップの取得先に応じた削除方法は、以下の通りです。

バックアップ先	リストア方法
Acronis Cloud へバックアップ	WEB 管理コンソール上から「復元」を選択し、復元対象を選択する画面でバックアップファイルを削除することができます。
ローカルディスク、及びネットワークパスへのバックアップ	バックアップ先へアクセスし、直接バックアップファイルを削除します。

4.3 リストア機能

①リストア方法

リストア方法は、「WEB 管理コンソール」からのリストアと「ブータブルメディア」からのリストアの 2 通りの方法が提供されます。リストアの対象・内容によって、使用できる方法が異なります。ブータブルメディアは、WEB 管理コンソールから ISO をダウンロードすることができます。具体的な一覧は以下の通りです。

リストア対象・内容	リストア方法
物理マシン OS(Windows / Linux)	・WEB 管理コンソールからのリストア ・ブータブルメディアからのリストア ※ベアメタル、及びオフラインマシンに対する OS の復元については、ブータブルメディアからのリストアを実行する必要があります。
物理マシン OS(Mac)	・WEB 管理コンソールからのリストア ・ブータブルメディアからのリストア ※OS の復元については、ブータブルメディアが必要です。また、ブータブルメディアは OS X 上でブータブルメディアを作成する必要があります。
仮想マシン OS ※Hyper-V エージェント、もしくは VMware エージェントでバックアップされたマシン	・WEB 管理コンソールからのリストア ・ブータブルメディアからのリストア
ファイル/フォルダ	・WEB 管理コンソールからのリストア ※バックアップ先がクラウドストレージの場合、ファイルのリストアは WEB 管理コンソールを開いている PC 上へのダウンロードによって復元されます。 ・ブータブルメディアからのリストア
システム状態	・WEB 管理コンソールからのリストア
SQL データベース	・WEB 管理コンソールからのリストア
Exchange データベース	・WEB 管理コンソールからのリストア
異なる環境への OS リストア (P2P,P2V,V2V)	・ブータブルメディアからのリストア

②リストアにおける留意事項

リストアを実施する場合の留意事項は以下の通りです。

リストア対象・内容	リストア方法
WEB 管理コンソールからリストアする際の留意事項	<p>【復元ポイントの選択】</p> <p>復元対象のマシンがオフラインになっている(インストールしたエージェントがインターネット経由でクラウド上の管理サーバへアクセス出来ない)場合、復元ポイントが表示されません。</p>
WEB 管理コンソールからファイルを「元の場所」へリストアする際の留意事項	<p>ファイルを元の場所に復元する場合は、次のファイル上書きオプションからひとつを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存のファイルを上書きする ・既存のファイルが古い場合は上書きする ・既存のファイルを上書きしない
ブータブルメディアを使用して OS をリストアする際の留意事項	<p>リストア対象として選択した OS イメージのディスクが復元先のディスクに自動的に割り当てられます。ディスクの割り当てが正常に行われなかった場合、または割り当て結果が意図したものと異なる場合は、ディスクを手動で再度割り当てることができます。</p> <p>※ディスクのレイアウトを変更すると、オペレーティングシステムの起動に影響することがあります。正常に実行される確証がある場合を除き、元のマシンのディスクレイアウトを使用してください。</p>
異なる環境(P2P,P2V,V2V)へ OS をリストアする際の留意事項	<p>異なる環境へリストアする場合は、「Universal Restore 機能」を有効にする必要があります。</p>

4.4 DR オプション機能

①オプション利用に必要な契約

DR オプションを利用する場合、「フリービットクラウド VDC ENTERPRISE-FARM Pro」のサービス規約及びサービス仕様書に同意したものとし、別途通知される申請書類を記入頂く必要があります。

サービス約款・サービス仕様書 URL:

http://biz.freebit.com/kiyaku/common/images/enterprize-farm_pro_service.pdf

②通常のフリービットクラウド VDC との仕様の違いについて

フリービットクラウド VDC との仕様の違いは、以下の通りです。

フリービットクラウド VDC	DR オプション VDC
<提供するグローバル IP アドレス> ・標準 16 個 (/28) ※利用可能 IP: 10 個 ・オプションで追加が可能	<提供するグローバル IP アドレス> ・8 個 (/29) ※利用可能 IP: 2 個 (追加不可)
<作成可能な仮想マシン> ・標準 1vCPU/500MB メモリ/50GB HDD～ 4vCPU/8GB メモリ/50GB + 1.6TB HDD (1.6TB は 800GB × 2 で提供) ・オーダーベースでメモリを最大 32GB へ変更	<作成可能な仮想マシン> ・1vCPU/500MB メモリ/50GB HDD～ 4vCPU/8GB メモリ/50GB + 1.6TB HDD (1.6TB は 800GB × 2 で提供) (オーダー不可)
<仮想ネットワークインターフェース(VLAN)> ・標準で 2VLAN 提供 ・最大 7VLAN 提供	<仮想ネットワークインターフェース(VLAN)> ・2VLAN 提供 (追加不可)
<ネットワーク帯域> ・95%ピーク課金プラン ・10Mbps 単位の固定プラン	<ネットワーク帯域> ・仮想マシン 3 日以内の稼働は無課金 ・4 日以上の稼働は 95%ピーク課金プラン

③DR 環境実装までの流れ

DR 環境を実装するまでの流れは、以下の通りです。

- 1 : 「フリービットクラウド VDC ENTERPRISE-FARM Pro」の環境引き渡し
↓
- 2 : フリービットクラウド管理画面にて「仮想マシン」を作成
↓
- 3 : フリービットクラウド上の仮想マシンにブータブルメディアをマウントしてリストア
↓
- 4 : リストアしたマシンへ管理画面よりログインし、VMwareTools をインストール
↓
- 5 : IP アドレスを変更
↓
- 6 : クラウド接続用 SSL-VPN ソフトを、接続対象の PC へインストール
↓
- 7 : SSL-VPN を利用し、システムアクセス

システムアクセスは SSL-VPN 以外に、ルーターを使用した IPsecVPN を設定することも可能です。クラウド基盤の VPN ルーターは Fortigate を使用しており、Fortigate の設定画面がお客様毎に提供されます。IPsecVPN の設定は、お客様にて実施頂く必要があります。

④DR オプションの留意事項

DR オプションの留意事項は、以下の通りです。

項目	留意事項
リストア用の仮想マシンの作成	有事の際に AcronisCloud からリストアを実施する場合、事前にフリービットクラウド VDC 上に「仮想マシン」を作成する必要があります。作成には 5 営業日を要するため、有事の際に「仮想マシン」を作成するのではなく、事前に「仮想マシン」を作成してください。「仮想マシン」は事前に作成した場合でも、電源を ON しない状態であれば課金対象になりません。

IP アドレス	フリービットクラウド上で、既存の IP アドレスを使用することは出来ません。事前に通知されたセグメント情報に合わせて、IP アドレスを変更する必要があります。
SSL-VPN の通信要件	SSL-VPN は 10443/tcp を使用します。

4.5 WEB 管理コンソール機能

WEB 管理コンソールは、主に 2 つの機能を提供します。

「アカウントの管理」

アカウントの管理では、管理者アカウント、「バックアップの管理」用アカウントの追加・削除・パスワードの変更や、「バックアップの管理」用グループの追加・削除を行うことができます。また、バックアップ対象数や AcronisCloud へのバックアップ容量を確認するためのレポートを出力することができます。

「バックアップの管理」

バックアップの管理では、バックアップ機能やリストア機能を使用することができます。

①アカウントの管理

「アカウントの管理」で提供される機能は、以下の通りです。

項目	責任範囲外
アカウントの追加・削除・パスワードの変更	<p>アカウントの追加・削除・パスワードの変更・有効化・無効化ができます。</p> <p>アカウントは、以下の 2 種類があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者 ・バックアップアカウント <p>バックアップアカウントは、「バックアップの管理」画面のみを使用できるユーザーです。「アカウントの管理」画面を使用することは出来ません。</p>
グループの追加・削除	<p>グループを作成することで、部署や OS 等でバックアップ対象を管理することができます。</p> <p>また、グループ毎に管理者、及びバックアップアカウントを作成することができる為、運用を分散させることができます。グループ毎のアカウントは該当グループのみを操</p>

	作することが可能となり、他のグループへアクセスすることは出来ません。
バックアップの通知	バックアップ計画が実行された際のメール通知を設定することができます。設定は、アカウント毎に設定できます。
レポート	物理マシン(サーバ OS)・物理マシン(クライアント OS)・仮想マシンの台数、AcronisCloud 上へのバックアップ容量をレポートをメール通知することができます。通知先は、アカウント毎に指定可能な「ビジネス通知」が有効となっているアカウントです。以下、2 種類のレポートを出力することができます。 <ul style="list-style-type: none"> ・提示レポート 1 ヶ月間のレポートが翌月 2 日に自動配信されます。「レポートを今すぐ送信」をクリックすると、前月の 1 ヶ月間のレポートが即時通知されます。 ・期間指定のレポート 任意の対象期間でレポートを作成します。期間の指定後、「レポートを今すぐ送信」をクリックするとレポートが配信されます。

【重要:レポートに出力される課金額について】

月次のレポート内に「値」として表示される金額は、実際に請求される金額とは異なる可能性があります。金額が異なるパターンは以下の通りです。

パターン 1 : Acronis クラウドへのバックアップ容量が 100GB 未満の場合

利用容量 × ¥50 にて「値」が表示されますが、ご提供最低価格は¥5,000 となります。

パターン 2 : Acronis Cloud 以外(ローカル、またはネットワークパス)へのバックアップ台数が、無償利用可能台数を超える場合

※この課金形態は、提供を終了しております。

ローカル、またはネットワークパスへ無償でバックアップ可能な台数は以下の通りです。

- ・サーバ OS の物理マシン台数 : 3 台まで
- ・クライアント OS の物理マシン、及び仮想マシン合計台数 : 30 台まで

※1 無償台数の権利は 2016/10 末までにご契約頂いたお客様に限ります。

※2 LinuxOS は、サーバ OS としてカウントされます。

※3 仮想マシンは、Hyper-V エージェントもしくは VMware エージェントどちらかを利用し、エージェントレスで取得するバックアップマシンとなります。仮想マシンに対してエージェントをインストールした場合は、物理マシンとしてカウントされます。

※4 1 台のマシンでローカル、またはネットワークパスへのバックアップと、AcronisCloud へのバックアップを併用した場合も、無償利用可能台数にカウントされます。

無償利用可能台数を超えたマシンに対する課金は、以下の通りです。※5

サーバ OS の物理マシン : ¥7,500

クライアント OS の物理マシン : ¥1,000

仮想マシン : ¥1,500

※5 AcronisCloud のみへバックアップを実行しているマシンは、¥50/GB の従量課金のみが適用されます。

パターン3 : Acronis Cloud 以外(ローカル、またはネットワークパス)に保存している場合
利用容量×¥15 にて「値」が表示されますが、ローカルバックアップの従量課金に加えて、月額基本料金¥5,000 もご請求対象となります。

②バックアップの管理

「バックアップの管理」で提供される機能は、以下の通りです。

項目	責任範囲外
エージェントのダウンロード	[WEB 管理コンソール表記: 追加] 各エージェントをダウンロードすることができます。
バックアップ計画の作成・割り当て	[WEB 管理コンソール表記: バックアップ] バックアップ計画の作成、及びエージェントがインストールされたマシンへ計画の割り当てを実行することができます。
リストア・バックアップの削除	[WEB 管理コンソール表記: 復元] リストア、及び AcronisCloud 上のバックアップファイルの削除を行う事ができます。
基本情報の表示	[WEB 管理コンソール表記: 概要] バックアップ元の以下の情報が表示されます。 ・IP アドレス ・インストールされているエージェントのビルド

	<ul style="list-style-type: none"> ・OS (Windows は OS バージョン表記、Linux は一律 Linux で表示) ・CPU ・メモリ
ジョブ履歴	<p>[WEB 管理コンソール表記: アクティビティ]</p> <p>バックアップ及びリストアジョブの履歴が表示されます。ただし、AcronisCloud 上からのファイルダウンロードを実行した場合は、履歴に表示されません。</p>
バックアップ対象マシンの管理画面からの削除	<p>[WEB 管理コンソール表記: 削除]</p> <p>WEB 管理コンソール上からバックアップ対象マシンを削除することができます。</p> <p>ただし、削除までに取得したバックアップデータの削除、及びエージェントのアンインストールは別途実施する必要があります。</p> <p>同一のマシンを再度対象とする場合には、エージェントの再インストールを実施してください。</p>

5. サービスの責任範囲

サービスの弊社責任範囲はサービス構成要素の部分となりますが、一部サービス責任範囲として除外される部分があります。

項目	責任範囲外
OS リストアの保証	OS のリストアは機能として提供されますが、バックアップを取得したハードウェア、及び仮想環境(ハイパーバイザー)のドライバと復元先のドライバが異なる場合に、「Universal Restore 機能」を使用しても正常にリストアされない場合があります。OS リストアの保証は、責任範囲の対象外となります。
エージェントインストールによる OS・システムへの影響	エージェントインストールによる OS やシステムへの影響については、責任範囲の対象外となります。
サービス仕様の変更、及び WEB 管理コンソールの仕様変更に伴	サービスの仕様、及び WEB 管理コンソールの仕様は、バージョンアップ、改修等の目的で Acronis 社の判断により

う通知	変更される場合があります。また、変更が発生する場合には、お客様への通知は実施されません。
-----	--

6. サポートについて

本サービスのサポートについて以下に示します。

6.1 サポート対象について

以下の対象をサポート対象と致します。

大項目	詳細 OS・バージョン
Windows	Windows Vista: すべてのエディション Windows Server 2008: Standard、Enterprise、Datacenter、Web の各エディション (x86、x64) Windows Small Business Server 2008 Windows 7: すべてのエディション Windows Server 2008 R2: Standard、Enterprise、Datacenter、Foundation、Web の各エディション Windows MultiPoint Server 2010/2011/2012 Windows Small Business Server 2011: すべてのエディション Windows 8/8.1: Windows RT Edition を除くすべてのエディション (x86、x64) Windows Server 2012/2012 R2: すべてのエディション Windows Storage Server 2008/2008 R2/2012/2012 R2
Hyper-V	Windows Server 2008 (x64) (Hyper-V 使用) Windows Server 2008 R2 (Hyper-V 使用) Microsoft Hyper-V Server 2008/2008 R2 Windows Server 2012/2012 R2 (Hyper-V 使用) Microsoft Hyper-V Server 2012/2012 R2 Windows Server 8、8.1 (x64) (Hyper-V 使用)
VMware	VMware ESX(i) 4.0、4.1、5.0、5.1、5.5、6.0

※その他、製品仕様上利用可能な OS について

製品仕様上利用可能な OS において、モジュールのインストール、バックアップ、リストアを実施頂くことは可能ですが、お問い合わせ対象外となります。

6.2 お問い合わせへの解決時間指標について

お問い合わせに関する解決時間指標は、以下の通りです。

・甚大度(高 A ⇒ B ⇒ C ⇒ D 低)

A : バックアップシステムがダウンするか、主要な点(バックアップクリエーション、バックアップリカバリ、データ喪失、ブート不能/システムクラッシュ、重大パフォーマンス低下等)で機能せず、バックアップのコア機能が妨げられ、事業活動に甚大な妨げとなる状態

B : 製品の主要機能(デプロイメントバリデーション、製品インストール不能)が作動せずクリティカルな時間上の要求が満足されないが、事業活動に影響は及んでいない状態

C : 製品機能に影響があるが、多くのオペレーションは継続しており(製品パフォーマンス、信頼性の問題、ログインエラー、事例のない作動等)重要度は中程度

D : 製品機能は影響を受けていない。重要でない使用上の問題、GUI の問題、製品情報(機能、要件、セットアップ等)の要求等

甚大度	暫定解決目標	最終解決
A	2 営業日	15 営業日
B	3 営業日	20 営業日
C	4 営業日	30 営業日
D	無し	次期バージョンリリース時

6.3 サポート窓口と受付時間について

お客様からのお問い合わせは電子メールにて受け付けます。ご連絡先は以下の通りです。

連絡方法	対応時間	連絡先
------	------	-----

メール	平日 10:00-18:00	backup-support@freebit.net
-----	----------------	--

お問い合わせは上記対応時間内に受付し、翌営業日中に一次応答致します。

7. 禁止事項

下記行為が確認された場合、事前に通知することなく、サービスの利用停止を行う可能性があります。又、当該行為により当社または第三者に損害を与えた場合には、当該損害の賠償を請求する場合があります。

- ・サービスの転売行為
- ・サービスアカウントの複数社共有(1社1契約が必須)
- ・契約社所有 PC/サーバではない対象へのモジュールのインストール
- ・P2V を目的としたテスト環境の利用(無償での悪用)
- ・LAN 環境内のみでのバックアップ(Acronis クラウドの利用が必須)
- ・その他、アカウントの不正利用(不正利用の判断は弊社が実施する)

8. 契約について

契約に関しては約款に基づいて行います。契約の流れを以下に示します。

8.1 契約の流れ

- ① 本サービスの約款・仕様書のご確認後、サービス申込書をご記入・捺印頂き、サービス申し込み・解約専用メールアドレス宛に PDF にて送信下さい。

Backup Orchestra サービス受付センター ※申し込み・解約専用メールアドレス

連絡方法	対応時間	連絡先
メール	平日 10:00-18:00	backup-sales@freebit.net

- ② 弊社にて必要書類を受領後確認し、問題が無い場合にお客様環境を設定します。原則受領後、翌営業日にてお渡しします。

※DR オプションは別途申請書類をご記入頂き、返送後、引き渡しに 5 営業日必要となります。

- ③ サービス申込書に記載頂いたご担当者様メールアドレスに、サービスをアクティブ化するための URL リンクが通知されます。

通知メールを送付した日付をサービス開始日とします。

- ④ お客様がメール通知されたURLよりアクティブ化を実施することで、管理画面へアクセス・操作が可能となります。初回接続時に、パスワードを設定することが出来ます。

8.2. 契約に関する書類

契約に関する書類は以下のようになります。

書類名	詳細
フリービットクラウド Backup Orchestra サービス約款	本サービスのサービス約款となりお客様にてご確認いただきます。
フリービットクラウド Backup Orchestra サービス仕様書	本書となります、本サービスの仕様が書かれています。
フリービットクラウド Backup Orchestra サービス申込書	本サービスの申込書となります。 お客様の請求先情報、サービス申込ご担当者情報等を記載頂きます。

8.3. 契約期間について

最低契約期間は 1 年間となります。その後、1 カ月単位での自動更新となります。

8.4. お客様の登録情報の変更について

契約完了後、お客様の社名・住所・連絡先・請求先等が変更になる場合、サービス申込書を再記入いただきます。

9. 解約について

解約をご希望の場合、サービス申し込み・解約専用メールアドレスへ解約の旨をご連絡下さい。解約の旨を受理した後、弊社より解約申請書をメールにて送付いたします。解約申請書をご記入・捺印頂き、サービス申し込み・解約専用メールアドレス宛に PDF にて送信下さい。受領日の月末を解約日とします。

Backup Orchestra サービス受付センター ※申し込み・解約専用メールアドレス

連絡方法	対応時間	連絡先
メール	平日 10:00-18:00	backup-sales@freebit.net

解約完了後の本サービスで利用したアカウント及びデータに関しては全て削除します。また基本利用料は解約月に関しては、日割の対象にはなりません。アカウントの削除は、解約月翌月の5営業日までの任意のタイミングで削除されます。

10. 課金について

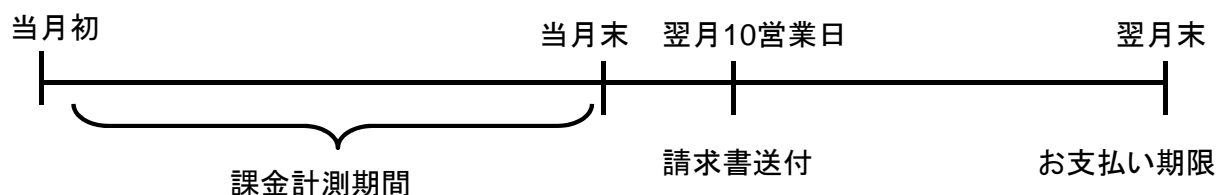
課金については以下にご説明します。

10.1 お支払い方法

弊社から請求書を送付します。弊社指定の口座にお振り込みいただきます。

10.2 課金サイト

当月末締め翌月末支払いとします。



課金対象月の1ヶ月間でバックアップしたデータをシステムで計測し、翌10営業日までにお客

様に請求書を送付します。

10.3 課金計算方法について

利用開始日に限らず、月極課金となります。

課金対象は、月内で AcronisCloud 上に取得したバックアップデータの最大値を対象に、¥50/GB の従量課金となります。AcronisCloud 上へのバックアップ容量が基本容量に満たない場合においても、月額基本料金¥5,000 が発生します。

また、Acronis Cloud 以外(ローカル、またはネットワークパス)へのバックアップの場合、月額基本料金に加え、バックアップデータの最大値を対象に、¥15/GB の従量課金となります。

10.4 DR オプションの課金について

DR オプションの課金は、「フリービットクラウド VDC ENTERPRISE-FARM Pro 」とは異なる価格体系で提供されます。

フリービットクラウド VDC	DR オプション VDC
<ul style="list-style-type: none"> ・各マシンのスペック×稼働日数 (電源 OFF 時未課金) ・IP アドレス利用料 ・ネットワーク利用料(重量ピーク課金 or 固定) 	<ul style="list-style-type: none"> ○仮想マシンの月内稼働が 3 日以内 ・基本費用+超過 HDD 利用料 ○仮想マシンの月内稼働が 4 日以上 ・仮想マシン数に応じた固定価格+NW 帯域利用料 (95%ピーク課金)

①基本料金に含まれるもの

基本料金には、以下の権利が含まれます。

フリービットクラウド VDC 上に最大 500GB まで仮想マシンを作成する権利(500GB 以内であれば複数台可)、月内 3 日間の仮想マシンの稼働権利、NW 帯域利用料、IP アドレス利用料、管理画面利用料が含まれます。3 日間の仮想マシンの稼働権利は、作成された仮想マシンそれぞれに対して付与されます。

②HDD 容量の追加料金(超過 HDD 利用料)

500GB 以上の容量を仮想マシンに割り当てた場合、¥2,000/100GB の月額費用が発生します。容量計算は 10 の位を切り上げで計算されます。

例) 総容量 850GB ⇒ 900GB(10 の位切り上げ) ⇒基本費用+100GB 追加×4

③DR 稼働時の料金

作成した仮想マシンが、1 台でも月内稼働日数合計 4 日以上となった場合に「DR 稼働」と判定されます。DR 稼働の際の料金は、以下の通りです。

仮想マシンの起動 5 台まで : ¥300,000/月

仮想マシンの起動 10 台まで : ¥450,000/月

上記に加え、NW 帯域利用料 ¥4,000/Mbps (95%ピーク課金)が発生します。

10.5 サービス費用未払い時の対応について

入金が2ヵ月遅延した場合、ご連絡の上、サービスを停止します。さらに、入金が1ヶ月遅延した場合、サービス上で動作しているデータを削除します。

11. サービス休停止時の連絡について

本サービスの全部、または、一部を休停止する際は、サービス申込時にお客様情報登録申込書のサービス申込者情報としてご登録頂いたメールアドレスに3ヵ月前までに通知致します。

12. テスト利用について

正規サービスをお申し込み頂いた際、お申し込み月末までを無償テスト期間として利用する事が可能です。

12.1 テスト利用における機能制限

テスト利用における機能制限は御座いません。
正規サービスと同様の機能をご利用頂くことが可能です。

12.2 テスト利用の期間

テスト利用は開始日より1ヶ月間有効です。
1ヶ月後に、自動的に本番利用に変更されます。本番利用をされないお客様は、テスト利用期間中に解約申込書をご記入ください。